救世軍公報

GOOD NEWS

ときのこえ

War Cry

5月号
福音版
2020
May
No.2800

二〇二〇年　五月一日　発行

明治二十八年創刊　福音版・毎月一日発行　広報版・奇数月十五日発行（除く七月）



愛がたくさんある社会に

本村いずみ

新緑のまぶしい季節となりました。一年の中でも過ごしやすい季節です。日本は四季が美しいと言われてきましたが、気候変動が原因でしょうか、近年の日本は、やや亜熱帯化し、春と秋が短くなったようにも感じます。そうは言っても、このすばらしい季節を十分満喫したいものです。

みなさんは、どの季節が好きですか。それぞれ、好き嫌いには理由があり、花粉症に悩まされている方にとって春は好ましくないでしょう。暑さ寒さについても、生まれ育った環境によって汗腺の数や耐える力も違うようです。様々な人とお話ししていると、ある人にとっては快適な環境や美しさも、ある人にとっては不快であったり、好ましくなかったり、ということも経験します。

五月には「母の日」がありますが、子どもが大好きという人もいれば、子どもが苦手だという人もいます。反対に、母親を好きな人もいれば、苦手意識をもっている人もいます。また、いろいろな事情で母親の愛情を受けられなかった人もいるでしょう。それでも、わたしたち人間は、だれもが母親の胎から生まれたことは間違いなく、母親がいたのも間違いないのです。そして、生まれるまでの数カ月間、母親の体内で守られていたことも確かです。

聖書の中に「女が自分の乳飲み子を忘れるであろうか。母親が自分の産んだ子を憐れまないであろうか。たとえ、女たちが忘れようとも　わたしがあなたを忘れることは決してない。見よ、わたしはあなたをわたしの手のひらに刻みつける」（イザヤ書49章15、16節）とあります。昔から母性愛、母親の大きな愛等、子どもに注ぐその愛の確かさが表現されてきていましたが、神様の愛はそれにはるかに優るものです。それは、大きく深く、絶えることなく、尽きることもない、今も、そしてどこまでも永遠に続く愛なのです。

聖書には、神様はわたしたち人間を神様の姿に似せて、かたどって創造されたと書いてあります（創世記1章）。そして、造ってくださっただけでなく、神にとって貴い存在として愛してくださいました。

神様は、わたしたちをいとおしく思い、愛を注ぎ、どこまでも愛してくださろうとして、わたしたち人間の罪の身代わりとして、大事な独り子であるイエス・キリストを十字架の死に渡されたのでした。それほどまでの痛みを伴う愛によって、わたしたちを、そして、この私をも、愛していてくださるのです。

こう感じているのは、私が特別だからではありません。神様は、私だけでなく、人間一人ひとり、もちろん、あなたを愛し、大切に思っておられるのです。あなたは、神様に特別に愛されている存在です。わたしたちは、神様からどこまでも愛されている、大切な一人ひとりなのです。

神様に愛されていることを心に留めて生きるとき、わたしたちは、自分の心にその愛が満ちあふれることを感じることができます。

聖書には、「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい」（マタイによる福音書7章12節）とありますが、神様の愛によって、自分が助けてもらいたいと願うように他の人を助け、自分が褒められたいと思うように他の人を褒め、自分が理解されたいように他の人を理解しようとするとき、あなたの周りは、きっと、もっと愛に満ちあふれた世界となることでしょう。

愛がたくさんある社会になることを願いつつ……。

（救世軍士官（伝道者））

Photo on Visualhunt

WINDOWS on the ARMY WORLD　世界をみつめて

〈全世界〉新型コロナウイルス感染拡大に対する取り組み

２月より新型コロナウイルスの感染拡大が懸念されていましたが、各国で感染予防対策に伴う措置に応じた支援活動をしています。

●**日本では**、３月２日からの学校一斉休校に伴い、江東小隊（教会にあたる）で、４回にわたる「こども給食」をおこないました。毎回50食準備。玄関前で地域の方々に提供し、喜んでいただきました。緊急の活動のため、回を重ねるごとに周知され、今後の地域支援活動の足掛かりの時ともなりました。（↓江東小隊のこども給食の様子）



●**香港では**、外出を自粛している高齢者の家庭などを訪問し、マスクや消毒剤などの衛生用品を届けました。

●**韓国では**、ジョンソン＆ジョンソン社様より衛生用品の支援を受け、必要を覚えている人々へ提供しました。

そのほか、世界の各地で政府の支援や多額の寄付を得て、緊急給食支援や、罹患者への回復施設の提供など、多種多様な支援がおこなわれています。

（↓ノルウェーでの支援活動の様子）



〈英国〉街頭生活をしている人を救いたいという少年の願いが成就

英国ロンドンの北東の町、イルフォードで、街頭生活者支援のマラカイ・プロジェクトがおこなわれています。この働きが始まったきっかけは、５歳の男の子からの手紙でした。

５年前、５歳だったマラカイ・ジャスティン君（写真下右）は、乳歯が抜けた記念に、と救世軍に５ポンドの献金をしました。その時、手紙にこう書いてお願いしたのです。「救世軍様、どうかこのお金で、外で暮らしている人に家をつくってください。」

マラカイ君の献金と手紙を受け取った救世軍イルフォード小隊（教会にあたる）のジョン・クリフトン（写真下左）は、その思いを実現したいと地域の行政や教会、ボランティア団体に働きかけました。すると、多くの賛同者を得ることができ、500万ポンド（約６億６千万円）の資金が寄せられました。







今年２月、コンテナハウスを積み上げ、改造してつくった42部屋の建物が完成（写真上）。早速入居者を迎えました。その中の１人は、３年間街頭で生活していた40歳の男性。依存症から回復した彼は、住居によって安定した生活ができる、と喜んでいました。

救世軍では、ドメスティック・バイオレンスや失業、依存症など入居者が街頭生活に至る理由となった様々な問題に対する支援もおこなっていきます。

（↓入所する女性〈左〉に花を渡すスタッフ）

↑マラカイ君を取材した動画URL

救世軍とは？ What is The Salvation Army?

心は神に　手は人に　Heart to God, Hand to Man





救世軍は、英国ロンドンに国際本部を置く、世界131の国と地域で活動するプロテスタントのキリスト教会です。1865年、英国のメソジスト教会の牧師だったウイリアム・ブースによって始められ、家のない人々、仕事に就けない人々、アルコールの悪影響下にある人々、搾取される女性や顧みられない子どもたち、災害に遭った人々などに助けの手を伸べつつ、神様の愛を伝えてきました。

日本での働きは、1895（明治28）年に始まり、伝道の拠点である小隊（教会にあたる）を開設。廃娼運動、失業者対策、病院や結核療養所の設立、児童や女性の保護、アルコール依存症者回復支援など、時代にさきがけて、様々な働きを興してきました。日本人で最初に救世軍士官（伝道者）となったのは山室軍平です。キリスト教界及び社会福祉分野における先駆者の一人にも数えられています。

創立者　ウイリアム・ブース　大将　ブライアン・ペドル（万国本営　英国ロンドン）　日本司令官　ケネス・メイナー（救世軍本営　東京都千代田区）

http://www.salvationarmy.or.jp

▼発行日及び定価
発行日
福音版・毎月一日発行
広報版・奇数月十五日発行（除く七月）
定価
福音版・一部　四〇円
広報版・一部　一〇〇円
クリスマス特集号（十二月一日号）・一部　一〇〇円
振替・〇〇一八〇―五―四四〇〇

発行兼　救世軍
印刷人　代表者　ケネス・メイナー
編集人　寺澤　眞由子

〒101―0051　東京都千代田区　神田神保町二ノ十七
電話　東京(03)三三七―〇八八一

発行所　救世軍本営
印刷所　ピーアンドエス

（取扱支部）救世軍は、統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、右救世軍にご相談ください。

聖書は新共同訳を使用しています　©共同訳聖書実行委員会 ©日本聖書協会

信仰の体験談
証言のページ

キリストを知る



声楽家・音楽伝道者
小谷野（こやの）　みぎわさん

＜プロフィール＞
東京都出身。東星学園高等学校卒業、武蔵野音楽大学音楽学部声楽学科卒業、桐朋学園大学音楽学部研究科三年修了。声楽を秋山雪美、蒲原史子、加賀清孝、葉玉洋子、各氏に師事。2008～2010年、イタリア・ローマに渡り研鑽を積む。帰国後、一般社団法人ユーオーディア・アカデミー声楽専門コース卒業。2017年AJIAA国際音楽コンクール2位(1位なし）入賞、ソロ・アンサンブル等、各地でコンサートに出演。「ゴスペルキャラバン・レプタ」メンバー。

キリスト教の礼拝には音楽が欠かせません。聖書には、「主（神）を賛美するために民は創造された」（詩編102編19節・カッコ内は編集部注）とも記されています。
近年、救世軍の様々な集会でソリストとして活動している小谷野さんが、音楽家としての今日までの歩みを語っています。

歌うことが大好きだった子どもが、歌えなくなった青年時代に

私は、両親が救世軍の信徒でしたので、生まれた時から小隊（教会にあたる）に通っていました。幼い頃は、家族そろって小隊に通うことが、ごくごく自然のことでした。

小隊では、子どものための礼拝として、日曜学校が毎週おこなわれていて私も参加していました。そして、日曜学校の前に必ず歌を歌う時間があり、私はこの時間が大好きでした。

この世界を創造された神様、私たちを愛してくださる神様、私の罪のために十字架で死なれ、復活された救い主イエス様、私の友達になってくださるイエス様、日曜学校のお話だけでなく、たくさんの歌を通して、神様のこと、救い主イエス様のことがわかりました。

そのようにして、幼い頃から自然に、〈歌うことは、神様をほめたたえること、とても大切なことなのだ〉と、心に刻まれました。

一方、私は、ありがたいことに健康優良児で、元気で声が大きく、幼い頃にはよく、知らない人から怒られました。学校の廊下を友人と歩いている時、銭湯に行った時、バスの中……。なぜか私だけが注意を受けることは日常茶飯事でした。

今、その頃の様子を思い出すと笑ってしまいますが、そんな調子だったので、どれだけ両親に苦情が来ていたかはわかりません。けれども、そのことで両親に怒られた経験は一度もありません。どんな場合でも、両親が怒ることはめったにありませんでした。

そんな、元気一杯の子ども時代から、思春期に入り、高校時代のことです。友人関係に悩み、歌えなくなってしまう時期がありました。心の中に、口にするのも辛い、重く苦しい思いがあって、神様をほめたたえる、ということができなくなったのです。

その時に、救世軍で姉のように慕っていた方に私の悩みを話すことができました。その方は、私の苦しみに共感して自分のことのように涙を流し、祈ってくれました。そして、聖書の言葉をくださいました。

「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。」（マタイによる福音書11章28節）

神様が与えてくださった恩師との出会いによって導かれた道

そして、ちょうどその頃、それ以降、私にとって歌の恩師となる、クリスチャンの声楽家秋山雪美先生との出会いがありました。それは、歌の門下生として門を叩いたわけではなく、秋山先生が、中高生のためにご自宅で開いていた、バイブルスタディ（聖書の学び会）に参加したことがきっかけでした。私の妹の友人のお





私は、この聖書に記された、イエス様の語られた言葉が、イエス様が私に直接語りかけてくださっているように感じました。そして、私の心の中に再び、喜びの歌が、神様をほめたたえる歌としてあふれてくるのがわかりました。

私の信仰にとって、大切な転機になりました。

母様が秋山先生で、私にも、お誘いの声をかけてくださったのでした。

今振り返ると、その出会いも、神様から導かれたものだったと思っています。その集いの中で、先生や集っている方々と共に祈り、聖書を学び、賛美の歌を歌うことが、私の楽しみになっていきました。

そんなある時、秋山先生の出演するオペラを観に行く機会がありました。そのオペラは子ども向けの内容でしたが、いつもお世話になっている秋山先生が、とても輝いて見えました。小さい身体にもかかわらず、会場一杯に声を響かせて演じておられたその姿に、私の心は奪われました。

それ以来、歌の学びを本格的に始めたい、と願うようになりました。両親に音楽を学びたい、と話した時には、二人共とても喜んでくれました。経済的なことを考えると、音楽の道への願いによく反対しなかったと今でも感謝しています。

ところが、歌の学びを重ねていくうちに、大好きな歌をより好きになっていく、という過程が一切（いっさい）なくなっていったのです。学びはだんだん難しくなり、奥が深くなっていきます。そのうちに、何をやっても薄っぺらな自分と、目に見えない音や感覚の世界との闘いのように感じられてきました。





写真上　ゴスペルキャラバン・レプタのメンバーと（左から３人目）
写真下　恩師 秋山雪美先生（左端）（救世軍高知小隊にて）

神様を賛美する働きを通して、多くの出会いと学びを経験しました

そのような悩みを抱えている中で、秋山先生主宰の女声コーラス「ゴスペルキャラバン・レプタ」のメンバーになりました。「レプタ」とは、聖書の中にある言葉です。イエス様は、貧しい中から全財産にあたる二レプタ（当時の最少額の硬貨）を献げた女性の信仰を喜ばれました。そのように、小さな者でも心を込めてすべて献げるとき、神様が喜んで受け取ってくださる、という思いが込められています。全員がクリスチャンで、私たちの歌を通してイエス様の救いを伝えたい、と活動しています。

メンバーとなって、お互いに祈り、欠け目を涙ながらに主に委（ゆだ）ね、ハーモニーが変化していく様を体験しました。そういった驚きや喜びの中で神様のすばらしさを伝えるコンサート活動に携わり、多くの出会いと、多くの学びを経験させていただきました。

自分の中での目に見えない闘いは、今でもあります。そのような中であっても、転機となった聖書の言葉が、イエス様が共に歩み、私の重荷を共に背負ってくださっていることを教えてくれるので、心の平安と励ましの源になっています。

今年に入り、私の父が、闘病を経て天に召されました。父は長年救世軍のブラスバンドのメンバーとして活動し、いつもラッパを吹くか、音楽を聴くか、くらいで、他の興味も交友関係もない人かと思っていました。ところが、お葬儀の際に、多くの方が父との最後のお別れを、と雪の降る中にもかかわらず参列してくださる姿に、ただの音楽ではなく、神様をほめたたえる音楽を愛する人が集う美しさを見た思いがしました。

近年、ありがたいことに個人的にも歌の賛美コンサートの機会が与えられ、救世軍の中でも声をかけてもらえるようになりました。ところが、父の葬儀の頃、直後に救世軍の函館小隊や佐野保育園で歌を用いての集いの依頼が控えていました。内心、お断りを検討していた私でしたが、母から、「神様から与えられたご奉仕の機会を家族の都合で断ってはいけない。後のことは大丈夫」と言われた時、母の信仰による力強さを見、私も力を得ました。

また、私のモチベーションを上げる起爆剤が、同世代の救世軍に所属する友の存在です。彼らと共に祈ったこと、聖書の学びや学生時代に参加したキャンプなど、楽しい思い出がたくさんあります。そうして一緒に楽しく時を過ごした友が、今は、伝道者となって活動する姿に励まされています。

一月の函館小隊では、賛美を通して神様への礼拝の時を導かせていただいたのですが、それがきっかけとなり、六月に予定されている「札幌小隊百一周年記念集会・賛美コンサート」での賛美の依頼につながりました。神様のなさる御業（みわざ）に、私の心は驚きと感謝で満ちあふれています。

救世軍で生まれ、救世軍で育てられ、ここまできました。これからは救世軍の中でも、さらに声をもって賛美をする働きに携わり、神様のすばらしさをお伝えしたい、ということが今の願いであり、目標です。

私は、人として、クリスチャンとして、一人の歌い手として、神様に育てられ、現在も育てていただいていると思っています。

（救世軍京橋小隊所属）





キリトリ

□私の近くの救世軍を紹介してください。
□□キリスト教についてもっと知りたいです。
□『ときのこえ』の購読を申し込みます。

ご氏名

ご住所

この部分を封書か葉書に貼り、裏面下の救世軍にお送りください。